

JASV は期間限定・地域限定豚コレラワクチンの実施を要望します

2018年9月から国内で発生し、52農場、3と畜場において106,532頭を殺処分している豚コレラに対して、一般社団法人日本養豚開業獣医師協会（略称：JASV、代表理事：呉克昌）ではこれまでに農林水産省に対しては、2月13日に野生イノシシへの経口ワクチンの早期実施の要望書を動物衛生課長宛に、3月25日にイノシシ陽性エリアの地域限定・期間限定の緊急ワクチン接種の要望書を消費・安全局長宛に、4月22日に農林水産大臣宛に提言・質問書を其々提出してきました。また、「豚コレラ発生拡大およびまん延防止対策としての養豚場での豚コレラワクチンの使用を求める要請書」について、5月16日時点で2,090名から署名を集め、これを自由民主党養豚農業振興議員連盟の宮腰光寛会長に提出し、同席された葉梨康弘議員、白須賀貴樹議員、坂本哲志議員にも、ワクチンによる対策の意義、現場のひっ迫した状況を説明させていただきました。

しかし、野生イノシシにおける感染が拡大を続ける中、遅ればせながら3月末からイノシシ経口ワクチンの投与は実施されるようになったものの、その実施区域の決定と散布は拡大の後手に回っており、その地域の養豚農場での対策については飼養衛生管理基準の遵守・徹底のみしか実施されておらず、養豚場での豚コレラ発生は続発しています。養豚場への豚コレラワクチンの実施について、吉川貴盛農林水産大臣は「最後の手段」と発言しており、これは当協会の考えも同様のところですが、3月25日以降、もはや豚コレラの拡がりには飼養衛生管理基準のみで防ぎきれものではなく、**一刻も早いイノシシ陽性エリアの農場に対する期間限定・地域限定豚コレラワクチンの実施が必要と考えております。**さらに、これらの地域の経営停止に追い込まれている既発生農場の早期経営再開には野生イノシシへの対応と併行した豚ワクチン接種がなければ実現できないものと考えます。

また、先日吉川農林水産大臣が記者会見で発言されたイノシシ感染に伴う調査対象区域（半径10km圏内）の早期出荷の実施については、過去の海外におけるイノシシ対策の実施情報からイノシシでの豚コレラの感染制御に要する期間は数年に及ぶことが予想され、その間常に野生イノシシの保有するウイルスに脅かされ経営再開ができない中では、到底現実的な案とは言えず、家族や雇用者を抱える農場主、殺処分にかかわる農場員、職員や関係者の心労を考えれば人道的な決定とも思えません。また、農林水産省は早期出荷時に一部未感染豚を農場で殺処分するよう説明しており、これは動物福祉に反すると考えます。

当協会では、1日も早い豚コレラの制御・撲滅および既発生農場の早期経営再開に向け、今後もワクチンによる対策も含め、適切かつ十分な支援を求めて活動を行ってまいります。

一般社団法人日本養豚開業獣医師協会(JASV:代表理事 呉 克昌)は養豚場の診療やコンサルタント業務に携わる養豚専門の開業獣医師で構成する団体で、45名の正会員、準会員が全国で1300戸の養豚場(全国の母豚数約50%)と契約し、国民に安心・安全な国産豚肉を供給するため生産者と日々連携して活動しています。JASVは豚コレラ発生、まん延防止のため、岐阜県養豚場の飼養衛生管理基準の再点検や疫学調査、情報提供などで農林水産省に協力して参りました。

JASV の豚コレラ対策に関する活動履歴

日付	内容
2019/1/30	JASV、7 例目関連農場疫学調査へ会員派遣
	農林水産省より岐阜県で実施する飼養衛生管理基準の再点検へ同行依頼を受け、役員で会員派遣を決定
2019/2/2	飼養衛生管理基準再点検に当たり、JASV から立入り手順書案作成し、農林水産省へ提示
2019/2/6～2019/3/15	飼養衛生管理基準再点検に同行し、岐阜県下豚コレラ陰性農場 33 農場へ会員獣医師 12 名を派遣。
2019/2/13	農林水産省動物衛生課を訪問し、動物衛生課長宛にイノシシ経口ワクチンの早期実施について要望書提出
	JPPA 緊急役員会への招集を受け、呉代表理事が参加。JPPA のイノシシ経口ワクチン、豚ワクチンについての要望書提出に同行
2019/2/21	岐阜県指導同行の中間とりまとめを提出
2019/2/22～	第 5 回以降の拡大豚コレラ疫学調査チーム検討会へ委員派遣を継続
2019/3/24	JASV 緊急役員会。豚コレラワクチンのイノシシ陽性エリア限定・期間限定接種について要望書の提出を決定
2019/3/25	呉代表理事が農林水産省動物衛生課消費・安全局長宛に豚コレラワクチンの地域限定、期間限定接種の検討を要望書として提出
2019/4/22	農林水産大臣への提言・質問書の提出。会員へ期間限定・地域限定豚コレラワクチン使用を求める要請書への署名を依頼
2019/5/16	養豚農業振興議員連盟宮腰光寛会長宛に 2,090 名分の署名を提出し、同席された葉梨康弘議員、白須賀貴樹議員、坂本哲志議員にも、ワクチンによる対策の意義、現場のひっ迫した状況を説明